

社会政策学会 Newsletter

◇学会本部 埼玉大学 経済学部 禹宗杭研究室
URL : <http://jasps.org> TEL : 048-858-3327 E-mail : woojw@mail.saitama-u.ac.jp
◇編集・発行 禹宗杭 (代表幹事) 首藤若菜・禿あや美 (Newsletter 担当幹事) 熊沢透 (事務局長)
◇事務センター 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2丁目 39-2 大住ビル 401
㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 社会政策学会事務センター
TEL : 03-5981-9824 FAX : 03-5981-9852 E-mail : g048jasps-support@ml.gakkai.ne.jp

【目次】

1. 第 146 回大会 (2023 年春季) 大会のお知らせ
2. 第 147 回大会 (2023 年秋季) 大会実行委員会からののお知らせ
3. 第 147 回大会 (2023 年秋季) 大会の開催予告および報告募集
4. 会則第 10 条の改正案 (名誉会員から永年会員へ) について
5. 第 145 回大会 (2022 年秋季) 大会報告
6. 第 145 回大会 (2022 年秋季) 大会会計報告
7. 2022-2024 年期幹事会報告
8. 従来の「会員名簿作成」をやめ、「会員検索モジュール」に移行することについて
9. 承認された新入会員

1. 第 146 回大会 (2023 年春季) 大会のお知らせ

開催校挨拶

Covid-19 パンデミックはまだ終息していませんが、感染状況が悪化しない限り、池袋キャンパスで対面開催する準備をしております。本学は若い会員も増え、全員で実行委員会を構成し、皆様のご参加をお待ちしております。

今回はパンデミック後はじめての対面での懇親会を予定しております。2 年以上にわたり大人数の宴会が禁じられました。懇親会がいかに大切なものであるのか、多くの人が痛感したと思います。会員か

らの懇親会再開の要望が強く、開催を最大限追求することにいたしました。

しかし、感染の影響がまだ残っており、ゴシックリバイバル様式の重厚な雰囲気漂う第一食堂は使うことができなくなりました。懇親会の会場確保は困難を極めました。結局のところ、会場を 2 つに分け、学内で開催することにいたしました。会員が一堂に会して、旧交を温め、出会いの場となることが懇親会の意義ではありますが、2 会場に別れ、人数制限を導入せざるを得なかったことをご理解いただきたいと思います。

前回の立教大学での大会開催は 2006 年 6 月でした。実行委員長は井上雅雄先生でした。当時は、第 1 日目は午前・午後とも共通論題にあてられ、2 日目は同一時間帯に 7 つの分科会が開催されてきました。参加者は 400 人を超え、盛況でした。懇親会は第一食堂で開催し、内藤則邦先生が挨拶をされ、当学会創立時の思い出をお話し下さいました。そのお話をきっかけに二村一夫先生が内藤先生にインタビューを行い、それは学会創設の重要なエピソードを記録した遺産となっています。

感染状況が落ち着き、平常化した大会として立教大会が歴史に刻まれることを期待しています。皆さまを初夏の池袋でお迎えできますよう祈っております。

開催校実行委員長 菅沼 隆

2. 第 147 回大会 (2023 年秋季) 大会実行委員会からのお知らせ

2023 年秋季の第 147 回大会は、10 月 7 日 (土)、8 日 (日) に立命館大学衣笠キャンパス (京都市) で開催します。立命館大学としては、2020 年秋季の第 141 回大会をびわこ・くさつキャンパスで開催する予定でしたが、その折にはオンライン開催となったため、キャンパスにおこしいただくのは久しぶりの機会となります。

立命館大学衣笠キャンパスは京都市内の北西に位置し、徒歩圏内に金閣寺、龍安寺、等持院などが立地しています。京都駅や市内中心部からは少し距離があり、バス (京都市バス、JR バス) をご利用いただく必要が

あります。

衣笠キャンパスへのアクセスマップは大学 HP をご覧ください。

<https://www.ritsumeai.ac.jp/accessmap/kinugasa/>

なお、開催日程の 10 月 7・8 日は三連休の週末 (9 日がスポーツの日) です。紅葉には少し早い時期とはいえ、コロナ後の京都はインバウンド旅行者の来訪が回復し、各地混雑しています。なるべくお早めにご自身で宿泊予約を手配していただきますよう、お願いします。7 日の夜には懇親会も開催する予定です。実行委員一同、皆様のご来訪を心待ちにしております。

(第 147 回大会実行委員長 櫻井純理)

3. 第 147 回大会 (2023 年秋季) 大会の開催予告および報告募集

日時: 2023 年 10 月 7 日 (土)~10 月 8 日 (日)

会場: 立命館大学衣笠キャンパス

■ 10 月 7 日 (土) 自由論題、テーマ別分科会

■ 10 月 8 日 (日) 書評分科会、自由論題、テーマ別分科会、共通論題

● 共通論題タイトル: 「ケアをする権利・しない権利: 脱・義務的家族介護を目指して (仮)」

● 座長: 埋橋孝文 会員 (同志社大学名誉教授)

● 報告者:

① 牧 陽子 会員 (上智大学)

② 相馬直子 会員 (横浜国立大学)

③ 廣野俊輔 会員 (同志社大学)

④ 山根純佳 会員 (実践女子大学)

【開催方式等について】

基本的に対面開催を予定しています。ただしなおコロナ等の状況によって、開催方式およびキャンパスも変更の可能性もあります。変更になった場合は別途お知らせします。

【発表の募集について】

* 自由論題報告、テーマ別分科会の募集日程は以下のとおりです。

・ 募集開始 2023 年 5 月 26 日 (金)

・ 募集締め切り 2023 年 6 月 30 日 (金)

* 募集については HP を通じて 4 月中に告知を行う予定です。詳細は HP をご覧ください。

* フルペーパー・ファイルの提出期間は 9 月 11 日 (月)~9 月 18 日 (月) を予定しています。締切の厳守をお願いいたします。

(秋季大会企画委員会 山村りつ・金井郁)

4. 会則第 10 条の改正案 (名誉会員から永年会員へ) について

名誉会員の制度運用については、2020-2022 年 期幹事会から継続審議となっていましたが、2023 年 2 月 17 日に開催された、2022-2024 年 期第 5 回幹事会において、いままでの「名誉会員」の代わりに、「永

年会員」を設けたい旨、会則第 10 条の改正案を審議・決定しました。2023 年度総会に諮りたいと思いますので、ご意見のある会員は、代表幹事の禹宛 (woojw@mail.saitama-u.ac.jp) にご一報ください。改正案の趣旨と内容は以下の通りです。

●改正の趣旨

現行の会則では、第10条において、「本会は、多年にわたり社会政策学の発展に貢献した研究者を、名誉会員とすることができる。名誉会員は、会員歴30年以上で年齢満75歳以上の研究者のなかから、幹事会が推挙し総会が議決する。」と規定している。これは、伝統的な意味での「名誉会員」について定めたものであり、現に少なくない研究者が、この規程により名誉会員となられ、いまに至っている。

しかし、現行の規程には問題もある。その一つは、「幹事会が推挙し総会が議決する」という手続き上のことである。幹事会がすべての対象者を把握できるとは限らず、たまたま幹事会から推挙されないと名誉会員になれないケースが起りかねない。もう一つは、これがより重要なことであるが、学会においても「高齢化」が進むなか、学会に永年貢献してきた会員を優遇する制度を設け、継続的に学会活動を支えるようにする必要があるが、現行の制度では、これを十分満たすことができないということである。

以上に鑑み、いままでの「名誉会員」の代わりに、新たに「永年会員」を設けることにしたい。

●社会政策学会・会則(第10条名誉会員) 改正案
(第10条の改正箇所と附則・改正歴の改正箇所の下線部を加える)

5. 第145回(2022年秋季)大会報告

社会政策学会第145回大会は、10月8日(土)、9日(日)の両日、日本福祉大学東海キャンパスで行われました。法政大学で開催された2019年秋季大会以来の対面開催となり、久しぶりに大会会場での白熱した議論や交流が交わされました。事前登録者186名、当日参加者40名の計226名の参加を得ることができました。

1. 開催準備

石井まこと前代表幹事から開催校の打診があったのは2021年5月でした。日本福祉大学は全国有数の社

【修正前】

(前略)

(名誉会員)

本会は、多年にわたり社会政策学の発展に貢献した研究者を、名誉会員とすることができる。名誉会員は、会員歴30年以上で年齢満75歳以上の研究者のなかから、幹事会が推挙し総会が議決する。名誉会員は、学会の役員の義務を負わず会費と大会参加費を免除される。ただし、本会の有料刊行物については、会員への頒価実費を負担するものとする。(後略)

【修正後】

(前略)

(永年会員)

本会は、多年にわたり本会の発展に貢献した会員を、永年会員とすることができる。永年会員は、会員歴30年以上で年齢満75歳以上を要件とし、その要件を充たす会員を幹事会が確認し、本人の同意を得たうえで、総会に報告することとする。永年会員は、学会の役員の義務を負わず会費と大会参加費を免除される。ただし、本会の有料刊行物については、会員への頒価実費を負担するものとする。(後略)

附則 本改正会則は、2023年6月3日から施行する。第10条につき、改正以前に与えられた名誉会員の呼称は、そのまま使うことができるものとする。

制定 1950年7月8日

(前略)

一部改正 2023年6月3日(名誉会員の代わりに永年会員を設けるように改訂)

会政策学会員を多く抱える大学でありながら、本学会の大会を開催した実績がないとのことでした。一部の学内会員に相談したところ、歴史ある社会政策学会の大会をお迎えすることは光栄なことであるとの意見で一致し、引き受けることとしました。若手を中心に5名の会員で実行委員会を組織して準備にあたりました。

本学のメインキャンパスは知多郡美浜町に所在していますが、名古屋駅から電車で1時間ほどかかるため、

比較的アクセスの良い東海キャンパスを会場とすることとしました。東海キャンパスは美浜キャンパスと比べると手狭ですが、本学会の規模からするとギリギリ収容できるのではないかと判断しました。ただし、大会期間中に名古屋市内で集客力のあるイベントが開催されたためホテルの宿泊料が高騰し、遠方から参加された皆様にはご迷惑をおかけしたと思います。

さて、本学は登録されている学会員数が多いとはいえ実際には本学を退職した会員も多く、かつ実行委員メンバーも開催校を引き受けた経験がないため大きな不安を抱えていました。加えて、第145回大会は久しぶりの対面開催だったため前例がなかったようなものであり、手探りで準備を進めることになりました。不慣れなことから行き届かない面が多々あったことをお詫びいたします。

2. 運営体制

今回の大会では、運營業務の多くをガリレオ社に業務委託しました。ガリレオ社は学会そのものの事務局業務も受託しているため、会員名簿の連動した参加者管理がスムーズに進んだと思います。これまでは開催校が郵便振替口座を開設して会計管理をしていたと聞いていますが、近年、各金融機関の口座開設ポリシーが厳格化されている傾向にあり、大会ごとに面倒な手続きが発生するのは不合理であるとの判断から学会の口座に一本化して会計管理をすることにしました。これも、学会事務局業務を受託しているガリレオ社だからスムーズにできたと思います。過去の開催校よりも楽をさせてもらって恐縮ですが、しかしこれが持続可能な形態だろうと思います。

また、今大会より事前の参加登録システムを採用しました。他学会では多く採用されているものの、慣れない会員には不便だったかもしれません。当日参加が多かったのもその影響かもしれません。しかし、ガリレオ社のご協力もあって受付管理はかなり簡便になったと思います。

準備を始めた当初は開催校の職掌を十分理解していなかったため戸惑うこともありましたが、基本的には、プログラム作成など大会の内容にかかわることは大会企画委員会が担ってくれました。幹事体制の移行期でした

が、現代表幹事の禹先生、前代表幹事の石井先生、事務局長の熊沢先生、秋季大会企画委員会の山村先生、金井先生たちに強力にサポートしていただきました。ありがとうございました。

3. 大会の内容

1日目(10月8日)は、「生活保護行政における公的統計」「社会的弱者のニーズに応じたサービス利用保障の課題」「健康・医療と社会政策」「多様な経営形態における非正規労働者」「最低生計費調査からみえる地方圏のリアル」「福祉サービスの質と政策評価」「デジタル化、インフォーマル就労、そして社会保障の新しいあり方」「市民の自律をめぐる諸探究」を主題とする8つのテーマ別分科会と、「労働」「就業継続」「社会福祉」「生活困窮」「所得保障」「ジェンダー」を主題とする6つの自由論題発表が行われました。また、夕方には臨時総会も開催されました。

2日目(10月9日)は、午前中に「福祉国家」「労働1」「労働2」「ケアと労働」をテーマとする4つの書評分科会が開催された後、午後は「コロナ禍の労働と社会政策ー労働者の生活を支える政策とは」をテーマとする共通論題が行われました。いずれのプログラムも久しぶりの対面開催で活発な議論が交わされていました。

従来に対面開催の大会では、共通論題のフルペーパーは印刷して配布していましたが、今大会では、大会企画委員会との協議により紙配布を取りやめました。これまでの大会では大学のノベルティバッグに資料集を入れて配布することも多かったと思いますが、配布物がほとんどなくなったことからバッグの準備もしませんでした。その代わり、オリジナルのクリアファイルを作成して必要最小限の資料を入れて配布しました。

また、対面開催の大会では懇親会がセッティングされていましたが、コロナ禍が収束したとはいえなため、やむなく諦めました。「懇親会がないと開催校の業務は半減する」と言われていたので負担は軽減しましたが、懇親会の実施を熱望する声は届いており、心苦しく思っていました。今回は時期尚早と判断しましたが、次回以降の大会では懇親会も再開されることを期待しています。

懇親会を見送った代わりに、休憩室の充実に努めました。お茶やコーヒーのほか、コメダの豆、なごやん、しるこサンドなど地元の銘菓を準備してご好評をいただきました。

この3年間続いていたオンラインの大会にも良さはあり、特に遠方にお住いの会員にとって対面開催の大会は参加しにくかったかもしれません。しかし、休憩室で

お弁当を食べながら談笑している皆さん、分科会終了後も会場内での延長戦を繰り広げている皆さん、仲間とともに飲み会に連れ立って出かけていく皆さんを見ると、やはり対面開催ならではの良さがあることを改めて実感しました。会場のあちこちで“対面はいいね……”という声が聞こえて嬉しく思いました。今後は各学会の大会も対面開催が主流になっていくと思いますが、引き続き活発な議論が交わされることを願っています。

(山田壮志郎)

6. 第145回大会(2022年秋季)大会会計報告

収 入		(単位:円)	支 出		(単位:円)
大会開催費	1,500,000		ガリレオ委託費	1,185,349	
大会参加費(事前納入)	430,500		参加者弁当代	70,200	
大会参加費(当日参加)	116,000		プログラム送信用封筒印刷代	14,210	
参加者弁当代	70,200		クリアファイル制作費	40,607	
書店広告・出展料	90,000		アルバイト人件費	270,000	
開催校より助成金	113,000		スタッフ弁当代	45,500	
			休憩室(茶菓子・紙コップ等)	35,161	
			備品・文具	5,523	
			学会会計への繰り入れ	653,150	
収入合計	2,319,700		支出合計	2,319,700	

〈参考〉参加登録者の内訳

登録種別	区分	人
事前登録: 186名	会員(一般)	149
	会員(院生)	22
	名誉会員	2
	非会員(一般)	8
	非会員(院生)	2
	非会員(招待者)	1
	未納・欠席	2
当日参加: 40名	会員(一般)	31
	会員(院生)	4
	非会員(一般)	3
	非会員(院生)	2

(山田壮志郎)

7. 2022-2024 年 期幹事会報告

日時: 2023年2月17日(金) 9:00~ オンライン

出席:

禹 宗杭、石井まこと、伊藤大一、岩永理恵、小尾晴美、

垣田裕介、金井 郁、上村泰裕、禿あや美、白瀬由美香、菅沼 隆、田中弘美、所 道彦、引馬知子、藤原千沙、栢田大知彦、水野有香、森 詩恵、森 周子、百瀬 優、山村りつ、熊沢透(記) 22名

欠席：

阿部 彩、金子良事、金 成垣、首藤若菜、田中聡子、
松本伊智朗 6名

議題

(1) 新入会員の承認

・12名の新入会員を承認(別掲)。あわせて2022年度末での退会者4名を確認。

(2) 会則・規程改正について

・「会則」第10条における「名誉会員」制度を廃止し、「永年会員」を新設することについて、第10条の改正案を確認。6月3日の総会に諮ることとする。(以前「長期貢献会員」として検討してきたが、「永年会員」とする)
・施行をいつにするか、HPでどのように公開するか、実際の発効の手順について、議論。

・「会費規程」第2条を2022年10月8日臨時総会承認に基づいて改正。あわせて「会費の割引に関する申合せ」の改訂を確認。順次学会サイトで公開することとする。(2023年2月末に公開開始)

・「若手研究者の旅費補助規程」を2022年10月8日臨時総会承認に基づいて制定。あわせて「若手研究者の大会懇親会招待に関する申し合わせ」を確認。順次学会サイトで公開することとする。(2023年2月末に公開開始)

(3) 従来の「会員名簿作成」をやめ、「SOLTI会員検索モジュール」に移行することについて

・費用の節約効果が大きい。／セキュリティの面で向上するといえるかどうか。

・記録としての学会名簿を後世に残す仕組みは必要。毎年一回タイムスタンプ付きのPDFを作成しておく契約をするなどを検討。

(4) 各種委員会報告・審議

①学会誌編集委員会

・編集の進捗状況報告・査読専門委員の依頼方法について検討。

②春季大会企画委員会

・第146回大会準備状況報告・自由論題報告とテーマ

別分科会の申請承認。

③秋季大会企画委員会

・第147回大会準備状況報告 共通論題の骨子が定まる。開催校の状況に不確定名部分が多い。

④広報委員会

・HPの専門部会ページのリニューアルについて、検討のうへ AcomaWeb に委託することを確認。

⑤国際交流委員会

・韓国及び中国との交流①145回大会と②中国社会科学国際論壇③国際講演会の後援について報告。

・国際学会報告助成について、了承。

・今後の活動予定

⑥社会政策関連学会協議会

・2022年度のシムポジウム(3月25日、オンライン)について、会員向け一斉メールを用意する。

⑦日本経済学会連合

・英文での学会概要を準備中。

(5) 各担当報告・審議

①若手研究者支援担当

・研究者育成フォーラム、修論フォーラム、若手研究者優秀賞の準備状況について報告。

・若手研修者優秀賞の選考委員は「終生一回」で済むかどうか、再検討する。

・旅費補助と懇親会招待について手順の確認。

・若手研究者支援の予算に関して 資料に基づき検討。来年度予算への反映方針を議論。補助と招待で25~30万、フォーラム関係で15万を見込む。

・2023年度予算では学会活性化枠内で、2024年度予算で「若手研究者支援」の独立費目を立てることとする。

②大会調整担当

・大会の開催・運営のありかたについて、昨秋幹事の意向を調査した結果を整理。

③専門部会活性化担当

・学会サイトにおける「専門部会紹介トップページ」の設定について、方針提案があり、承認。

④学会誌刊行形態最適化担当

・ミネルヴァ書房の最新の見積りを了承し、2024年(第16巻)からの編集発行・オープンアクセス化を契約する事を決定。

⑤実行委員会

- ・参加費のクレジット決済を導入
- ・池袋キャンパスでの開催が困難になってきている。対応案を複数検討中。新座キャンパスでの開催もありうる。
- ・教室利用計画の確定を待つ。3月中旬か。
- ・一日オンライン化、近所の施設を借りる、近所の大学を借りる、など。

(6) 次回幹事会の日程

- ・後日調整する。

(7) その他

- ・「日本・東アジア社会政策部会」を「アジア部会」へと名称を変更する提案。「アジア」という名称の「大きさ」について意見があり、再検討をお願いする。4月の幹事会で再検討。
- ・国際交流委員会から。日本経済学会連合会の補助申請について、確認し、会員に至急連絡する。
- ・日本学術会議 公開シンポジウム「社会包摂ビジョン」の後援を行う。 (熊沢 透)

8. 従来の「会員名簿作成」をやめ、「会員検索モジュール」に移行することについて

2023年2月17日に開催された第5回幹事会において、従来の「会員名簿作成」をやめ、「会員検索モジュール」に移行することについて、審議・決定しました。

その趣旨は、従来方式の会員名簿作成はもうしないこととし、代わりに、現在学会が導入しているガリレオのプラットフォームを活用し、その「会員検索モジュール」を使って、会員全体のリストを眺めるほか、適宜検索語を入れることによって会員情報が得られる方向に移行したいということです。

この「会員検索モジュール」に移行しますと、会員だけが会員情報にアクセスでき、そして、会員自らの情報更新がリアルタイムに反映されるというメリットがあります。なお、従来は、2年に1度名簿を作成するために60万円以上の費用を要してきましたが、当該モジュールへ移行しますと、2年間に13万円強で済む（ほかに導入の初期費用として3万円強がかかる）というメリットもあります。

年度内を目途に作業を進めますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

9. 承認された新入会員

2023年2月17日入会承認

氏名	所属	専門
大橋美加子	名古屋経営短期大学健康福祉学科	社会保障・社会福祉
金 鉉卿	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究所	社会保障・社会福祉
堀江和正	東京大学大学院 人文社会系研究科	社会保障・社会福祉
保田真希	北翔大学 短期大学部 こども学科	社会保障・社会福祉
霜永智弘	同志社大学 社会学研究科	労使関係・労働経済／社会保障・社会福祉／労働史・労働運動史
松清あゆみ	東京大学先端科学技術研究センター社会包摂システム分野／その他	社会保障・社会福祉
諸星たお	なし	記載なし
跡部千慧	立教大学コミュニティ福祉学部	労働史・労働運動史／
山仲遼太郎	成城大学大学院 経済学研究科	社会保障・社会福祉
大村和正	立命館大学 産業社会学部	社会保障・社会福祉／その他
奥寺 葵	千葉商科大学 商経学部	ジェンダー・女性／その他
武子 愛	島根大学 人間科学部	社会保障・社会福祉／ジェンダー・女性